



Wall Book

~Street of the Story~



① はじめに

都市化が進む近年、路地や外で遊ぶ子供をあまり見かけなくなった。ビルが立ち並び交通網が急速に発達していく現在において、子供が安全に遊べる場所は徐々に減少してある。

また、テレビやゲームの普及によって、こども達は昔ほど外で遊ばなくなったとともに、本を読まなくなってしまい、活字離れが進んでる。

こども達が安全に楽しめる場所はもう戻ってこないのだろうか？

こども達が本をたくさん読む時代はもう戻ってこないのだろうか？



Wall Book の提案

I 場所の提案

都会において現在使用度が低い高架下やトンネル、塀の壁が有効に活用化され得るが人通りも少なく、暗くて危険な場所であるイメージが強い。このような場所を、危険な場所としてではなく、子供が安全に楽しめる遊びの場、大人にとっても安心できる場所として人々に提供する

II コンテンツ

子供が本を読むのは室内で、手に取れる紙の本だという先入観があるが、昔は紙芝居などがあった。

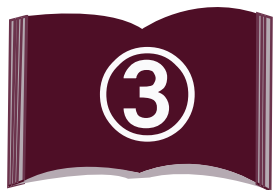
紙芝居を模倣して、誰もが目に留めることのできる環境の中楽しめる本を作る。その第一歩として、物語、絵本を作家志望の人や一般人、幼児等から募り、公開する。

I + II

高架下やトンネル、塀の壁に、公募で集まった中から選出した物語や絵本をパネル化し、ディスプレイする。絵本の絵ももちろん忠実に再現する。本の内容は月ごとに更新されるものとし、話の続きが気になって再度訪れたい、という気持ちになるのを狙う。



現在、高架下やトンネルにはすでに壁絵は存在しているが、もしもここに本があったなら、もっと大勢の人で賑わう明るい場所になるだろう。



③ さいごに

Wall Book の効果として、まず子供にとっての遊びの場が広がりと共に子供の親も一緒になって楽しむことができる。そしてその場は遊びの場所である一方、学びの場とも成り得るのである。さらに、目的を持った人に限らず、単にその場を通りかかった人でさえ **Wall Book** を目にすれば、きっと楽しい気持ちになり、また通りたいと思うのではないか。